



いとひば 11月

運動公園の木々は晩秋から初冬の装いに変わりつつあります。登校してくる子どもたちの服装も手袋を付け防寒対策をしている子が多くなりました。

2学期も終盤となりました。今学期の成果が確認できるよう努力してまいります。

地域の皆様に感謝

子ども達の見守り活動ばかりでなく、様々な面から支えていただいていることに感謝申し上げます。

今年も、丹精込めて育てた大輪の菊を玄関に飾っていただきました。玄関は菊花展の会場のように華やかです。

先日は、パンジーのプランターを届けていただきました。来年の春までかわいい花を楽しませていただきます。

また、体育館南には創立100周年記念の植え込みがあります。大きくなりすぎた黒松の手入れもしていただきました。

学校を、環境面からご支援いただいていることに感謝申し上げます。

5年生は、総合的な学習の時間に「吹上の高齢者とともに」という学習をしています。先日は、吹上地区体育協会グランドゴルフサークル14名の皆様に教えていただくとともに、楽しく活動させていただきました。

ご協力ありがとうございました。



いとひば祭

今年も盛大に「いとひば祭」を開催することができました。

役員の皆様には、2日間にわたりご協力いただきありがとうございました。また、地域の皆様から多数の寄贈品をいただきましたことにも感謝申し上げます。おかげさまで、昨年を上回る収益を上げることができました。(詳しくは、後日お知らせいたします。)

前日に行われたファミリー参観にも大勢の皆様にお越しいただき子ども達の学習の様子を見ていただきました。感想・ご意見等は今後の指導に生かしてまいります。

災害時避難訓練

10月には、警察署の協力を得て、不審者対応の避難訓練を実施しました。今回は、地震により火災が発生したことを想定して避難訓練を行いました。

避難時の様子を見ますと、回を重ねるごとにスムーズな避難ができるようになっています。今回は、消防署の協力を得て、地震体験(起震車体験)と煙体験を実施しました。

地震や火災による煙の恐ろしさを身をもって学ぶことができたことでしょう。



・ とてもうれしいこと言葉 ・

「手伝いますか?」「私たちがやります。」「これ、運びますか?」最近子ども達から掛けられた言葉です。こんな言葉が自然に出てくる子ども達。素直な心・温かい心が育っていることに幸せを感じています。

小さな親切運動作文コンクール

～入賞作品から～

＜最優秀賞・栃木県議会議長賞＞

「幸せ者」

6年 山田 真基

僕は、今も、そして昔からずっと、皆からたくさんの親切を受けながら生きています。

食べさせてくれる、家に住まわせてくれる、いつも見守っていてくれる、やってはいけないことをきちんと叱ってくれる、学校に行かせてくれる、そして、行ってらっしゃいやお帰りなさいを言ってくれる両親や祖父母。さらに学校に行けば、毎日優しく勉強を教えてくれる先生方。勉強はもちろん、いろいろなことを教え合うことができる友達やクラスメイト。そして、その中でも特に、互いに固い信頼関係で結ばれている親友。

こういった人たちに囲まれながら生きている僕は本当に幸せ者です。皆の親切があったから、今、僕は生きていると言っても過言ではありません。

しかし、僕だけが例外ではありません。皆も皆に支えられて生きているのだと思います。

僕には、忘れられない思い出があります。一年生の二学期、僕の誕生日近くに盲腸になってしまいました。盲腸という病気はどんな食べ物を口に入れても気持ち悪くなるとてもいやな病気で、初めての手術や一週間の入院生活は、一年生の僕にとっては、怖くてとてもつらいものでした。

そんな大変な思いをしながら入院したとき、当時担任だった先生がわざわざ僕の病室に来てくださいり、あるものを僕にくださいました。それは、「きになるともだち」という一冊の本と一本のカセットテープでした。

僕は、まず本を読んだ後、カセットテープを聞いてみました。

「手術がんばって！」

「盲腸なんかに負けるな！」

「また帰ってきたら一緒に色々と話そうね」

「君なら大丈夫！」

言葉を失いました。

友達一人一人の言葉を聞いているうちに、僕は涙が止まらなくなっていました。今だって、こうして思い出しながら書いていると、また、涙が出てきます。

そして、無事退院し、学校に着くと、

「もう帰ってきたのか！ よかったーっ！」

「遅れた勉強は教えてあげるよ！」

と、僕の周りには今まで経験したことのないようなとても優しい空気が漂っていました。

なぜかここまでくると、盲腸になって本当によかったですと思えてしまうくらいです。

それからというもの、皆は今まで以上に仲良くしてくれました。また、自分自身も皆の親切を、心から幸せに感じることができるようになってきました。

この貴重な体験から、「やっぱり親切はすばらしいものだ」と心の底から思っています。そして今、たくさんの友達や家族に囲まれながら生きていることに幸せを感じています。

今度は僕も、よりたくさんの人へ親切をして、皆を幸せにし、お返しをしていきたいです。

◎ 「小さな親切」について体験したり考えたりしたことを書いた作文が多数入選しました。

＜優秀賞（作文の部）＞

「小さなしんせつ」 2年 板橋汐莉さん

「やさしいことば」 2年 発生川浩基さん

「やさしさであなたに笑顔わたしも笑顔」

5年 関口香里さん

＜優良賞＞

「わたしにもできるんだ」

3年 石井伶奈さん

「やさしさのリレー」 4年 野尻天翔さん

「やさしい気持ち」 6年 萩原瑠花さん

＜優秀賞（標語の部）＞

「話し合える やさしい友達

たくさんいるよ」

5年 田中康太郎さん



